

事前評価報告書

令和7年10月2日（木）

研究種別	総理研課題	
研究課題名	降下火砕物による木造建築物への影響に関する研究	
研究期間	令和8年度 ～ 令和10年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	3.4
2	研究内容の新規性	3.2
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.4
4	研究体制、研究予算の妥当性	3.0
	総合評点	3.3
[評価所見]		
○富士山噴火に伴う降下火砕物による被害軽減は、県民生活や防災対策に直結する重要課題であり、研究の必要性は高い。		
○火山礫に関する研究は前例が少なく、山梨県および富士山特有の課題に対応する点で新規性が認められる。		
○研究体制や目標は概ね妥当と評価されるが、研究で明らかにすべき範囲や具体的な到達点をより明確にする必要がある。		
○建築物の耐性向上とコストの関係を定量的に示し、行政施策や個人住宅対策に資する提言を行うことが求められる。		
○降下火砕物被害の軽減策は早急な成果が求められており、本県ばかりではなく全国で使える成果も発信してほしい。		